

自分たちのために

浦添市立仲西小学校 六年 百次 黄 磯

今から七十年前に沖縄で戦争がありました。ぼくたち六年生は平和学習をしています。

戦争は、生きのこるのがむずかしく、そこにすむ人々もまきこみます。生きのこってもびようきでなくなる人もいます。ガマでもしゅうだんじけつをする人が何人もいたそうです。かぞくもバラバラになりました。ともだちともあえなくなりました。これまでのたのしい生活もこわれました。もうこんな戦争は、おこらないほうがいいです。

じいちゃんからきいた話では、子どもでもじゅうをもたされて戦争に出されたそうです。とてもごんこくでひどいことだとおもいました。こんなことがおこる戦争はみとめられません。

戦争はおわったけど、世界が平和かどうかびみょうです。北ちようせんでは、水ばく実けんではくだんをばく発させるし、世界のあちこちで争いが発せいしています。

沖縄のアメリカぐんきちからオスプレイが日々とばされて、戦のれん習をしています。沖縄も真の平和

とはいえないです。

真の平和は、こんなかんじです。争うことなくすめるまちになってほしいです。世界中の人みんなが考えることです。そうじゃないと、真の平和はやってこないです。

ぼくは平和のために自分の生活をふりかえりました。ぼくは日ごろはおだやかでじゅんすいだけど、おこると体当たりやふいうち攻撃をともだちやほかの人にしてちようはつしていました。だけど、こんなことが戦につながるので、今はやめています。ともだちがいやがることはやめました。

あい手に手を出すのをやめると、たまにとつくみあいをしていたりゆうきさんともなかよくなりました。ともだちとなかよくすることが平和へのだい一歩です。世界のみんながぼくとおなじことをかんがえてくれて、人にやさしくしてくれると戦争がなくなるかもしれないです。

沖縄戦というひきんなことがあった島だからこそ、沖縄の人々はそのしそんに戦争のごんこくさをつたえて、二どとやってはいけないことをアピールしてほしいです。いつもすきな家ぞくといっしょにくらしたいです。平和がひつようです。